１１月の普及活動状況

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援担当の取組～

岐阜県農政部農業経営課

＝目　　次＝

ダイジェスト版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

各農林事務所農業普及課

岐阜農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
西濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
揖斐農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
中濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
郡上農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
可茂農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
東濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
恵那農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
下呂農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
飛騨農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

農業経営課技術支援担当

農業経営課技術支援担当・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

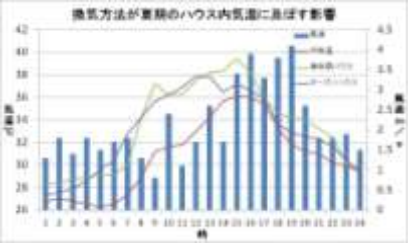
＜１１月普及活動状況ダイジェスト版＞

新たな産地づくりの推進　～活力ある新産地づくり～

岐阜農林　■アスパラガス　オープンハウスは省エネなのか？（実証中）

農業ハウスの換気方式は、自然換気方式と強制換気方式（換気扇・循環扇）に大別されるが、羽島市のアスパラガスでは、強制換気方式（換気扇（表１））を普及している。

今回は、節電対策の観点から自然換気方式に着目し、羽島市でオープンハウスの実証展示を行っている。今後のハウス内温度管理の参考とするため、夏期のハウス内の光度・気温・換気状況調査（グラフ）を行い、データを収集している。



(表1)換気扇にかかる電気代調査結果
間口6m＊長さ45mハウス一棟
換気扇一機（センサー30℃稼働設定）
電気料金（基本料金を含む）

平成22年	11月	¥628
	12月	¥273
平成23年	1月	¥273
	2月	¥273
	3月	¥583
	4月	¥691
	5月	¥638
	6月	¥628
	7月	¥1,060
	8月	¥1,083
	9月	¥1,158
	10月	¥910
	合計	**¥8,198**

郡上農林　■ひるがのにんじん　にんじんミックスジュース

ひるがのファイト倶楽部、ひるがのドリーム、寺田農園の担当者が集まり、ひるがの高原の秋にんじんと飛騨りんごを利用したミックスジュースの製造販売について、高鷲振興事務所で検討会議を行った。「ひるがの高原にんじんミックスジュース」として新たなブランドを立ち上げ、名古屋の三越や香港へサンプル出荷することを計画しており、農業普及課では、郡上地域での６次産業の目玉として支援していく予定である。

【秋にんじんの収穫】

可茂農林　■加工ねぎ　坂祝町青ねぎトンネル被覆試験

坂祝町青ねぎ生産部会は、冬場の早期出荷を目的に一部の農家で小規模ハウスによるトンネル栽培を実施している。先進県によると、トンネル栽培は冬期間の出荷が早まるとともに、とう立ちも抑制されるとの報告がある。農業普及課では当該事業を推進し、産地拡大を図るため、トンネル内の経時的温度変化や被覆資材の違いによる保温効果について調査する計画である。

【被覆前の小型ハウス】

飛騨農林　■宿儺かぼちゃ　フードアルチザン（食の匠）打合せ会議を開催！

「ぎふ伝統食文化グランプリ（県とイオン㈱の包括提携協定にて開催）」において宿儺かぼちゃ研究会が最優秀賞を受賞したことを受け、11月25日に研究会、イオン㈱、ＪＡ、市、県が今後の取り組みについて打合せ会議を開催した。

今後は、イオン㈱が推進するフードアルチザン（食の匠）プロジェクトに向け、関係機関が連携し産地振興に向けた課題の整理等を行っていく。

【イオンとの打合せ会議】

主要農産物の生産振興　～売れる農産物づくりと産地の強化～

西濃農林　■きゅうり　天敵（スワルスキー）の利用実証

農業普及課では、きゅうりの害虫「ミナミキイロアザミウマ」の防除対策として、天敵（スワルスキーカブリダニ）の利用実証を３戸の生産者で行っている。天敵は９月に放飼し、11月下旬の栽培終了まで続けた。実証の結果、天敵の放飼は、高い防除効果が確認され、殺虫剤の使用回数は慣行の50%以下となっている。

恵那農林　■トマト　次年度の後半出荷量の安定をめざした取り組みの誘導

今年の夏秋トマトの出荷量は1,617tと前年をやや上回り、後半出荷量は36%と前年より3%増加した。しかし、平年並みを脱しておらず、次年度は取組の結果を出す正念場となる。このため農業普及課では、次年度の栽培計画が固まる１月の三者面談までに、地区栽培反省会等の機会を活用し、後半出荷量の確保に向けた取組の推進を行っている。

今年実施した主枝更新・花房除去、2 期作、高温対策の実証結果と、アンケート調査を元にしたホルモン濃度の見直し結果などを用いて、各自の技量にあわせ後半出荷確保のメニューを選択して取り組むよう支援し、また、技術部会員からも取組結果や今後の改善点等意見を述べ、生産者側からの視点での助言を求めている。

農業普及課では、今後開催される生産者、JA との個別三者面談により後半出荷量確保に向けた取り組み計画を支援し、産地全体の出荷量安定につなげていく予定である。

【地区トマト栽培反省会】

下呂農林　■飼料用米　**飼料用米の出荷準備始まる**

下呂市では､本年度から約 23ha で本格的な飼料用米の生産が始まった。９月に収穫された飼料用米は、乾燥、調製を経て最終の出荷準備に入った。

飼料用米は、市内の畜産農家とＪＡへ出荷されるが、荷姿が指定されているため、紙袋からフレコンへの詰め替え作業を、11 月 18 日に市、ＪＡ等関係機関が参加して行った。

【生育調査をする普及指導員】

農業普及課では、23 年産の個別出荷実績等を分析し、次年度の安定生産に向けた技術支援を行っていく。

担い手の育成確保　～明日の農業を担う新規就農者と地域農業を守る多様な担い手育成～

中濃農林　**新規就農者へ対応**

管内在住の新規就農希望者と、ＪＡ、市担当者とともに、露地野菜による就農までの具体的な手順について協議する機会を持った。現在受けている研修内容と、就農する作目にミスマッチが生じたため、来年度はＪＡの施設を利用して研修することとし、中濃地域就農支援協議会中濃支部において、就農計画の作成等を支援していくこととした。

また、ＪＡが行ってきた就農塾生の中から、さといも、夏秋ナスの就農希望者が２名誕生した。ＪＡ、市担当者と、それぞれの現状と課題について確認し、来年度の作付け開始に向け、準備を進めていくこととした。

東濃農林　**（農産加工活動　始動）**

10月30日に瑞浪市内の女性25名により農産加工組織「工房みちくさ」が設立されるとともに、11月5日には「工房みちくさ」のメンバーが準備を進めてきた農産物加工所が完成し、竣工式が行われた。

「工房みちくさ」では、餅、惣菜、弁当、漬け物を加工し、来年オープンする瑞浪市農産物直売所等での販売を目指している。

【加工品を説明する山田代表】

農業普及課では、加工組織の設立、加工所開設に向けて継続的に相談活動を行ってきた。特に今回は、女性達が自己資金を集め、企画してきたことから、組織形成から加工施設のレイアウトづくり、設備の選定・調達まで、広範かつきめ細かな支援を行った。支援を通じて、目的に向かって行動する女性の行動力に改めて驚かされた。

地域の動き等　～魅力ある農村づくり～

揖斐農林　**ブルーベリーで耕作放棄地解消**

１１月１４日に県及び県耕作放棄地対策協議会の主催により池田町般若畑地内にある今西和平さんの圃場でブルーベリー苗の植え付け作業が行われた。当日は、池田町及び同町と連携協定を結ぶ岐阜農林高等学校の生産流通科果樹専攻生も交えた３４名が参加し、３０ａの圃場に約５００本の苗木を植え付けた。

学生らは農業普及課担当からブルーベリーの特徴や栽培方法等について、園主からは経営方針（観光農園）や耕作放棄地の実情と対策について学んだ。

当日の植え付けも含め１ha の圃場には約１，３００本のブルーベリーが植わっており、２年後には本格的な収穫が始まる予定である。

～農林事務所農業普及課、農業経営課技術支援担当の取組～

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１１月３０日現在

今月の重点活動

■アスパラガス（活力ある新産地づくり支援事業）

オープンハウスは省エネなのか？（実証中）

農業ハウスの換気方式は、自然換気方式と強制換気方式（換気扇・循環扇）に大別されるが、羽島市のアスパラガスでは、強制換気方式（換気扇（表１））を普及している。

今回は、節電対策の観点から自然換気方式に着目し、羽島市でオープンハウス（写真）の実証展示を行っている。今後のハウス内温度管理の参考とするため、夏期のハウス内の光度・気温・換気状況調査（グラフ）を行い、データを収集している。

(表1)換気扇にかかる電気代調査結果
間口6m＊長さ45mハウス一棟
換気扇一機(センサー30℃稼働設定)
電気料金(基本料金を含む)

平成22年	11月	¥628
	12月	¥273
平成23年	1月	¥273
	2月	¥273
	3月	¥583
	4月	¥691
	5月	¥638
	6月	¥628
	7月	¥1,060
	8月	¥1,083
	9月	¥1,158
	10月	¥910
	合計	**¥8,198**

主要農作物の生産振興

■水稲

水稲栽培暦作成指導

平成２４年度の水稲栽培暦について 11 月 14 日にＪＡと検討会議を行った。今年の水稲の収量・品質が全般的に良好であった一方で、農薬・肥料の展示ほでは、良好な結果が少なかったことから、栽培暦は小幅の変更に留める方針とした。会議では、近年のコシヒカリの収量低下傾向が課題として取り上げられ、土づくりの推進や施肥改善試験をすることとした。

米粉用米「北陸１９３号」契約量確保

昨年に引き続いて設置した米粉用品種「北陸１９３号」の展示ほ(芥見地区 13a)で 10 月 28 日に収穫が行われた。昨年は、獣害等により契約数量が確保できなかったが、今年は、植付時期を早めることで増収をねらい、約 600kg/10a を確保することができた。今後は、米粉加工会社に出荷され、加工適性の調査を行う予定である。

■いちご

ハウス内環境制御のため測定装置を設置

ハウス内の環境制御を行い収量向上や省エネを目指すために、農産園芸課や農業経営課の協力の下、測定装置（温度、湿度、照度、炭酸ガス濃度を一括測定）をレンタル設置した。この装置により篤農家のハウス管理技術を数値化することができ、それを経験の浅い農家に伝えることでハウス管理技術を習得出来る。現在は、データの収集と分析を行いつつ、研修会や巡回でハウス内環境の適正制御指導を行っている。

【写真ハウス内環境制御装置】

ぎふいちごを加工品で

ＪＡぎふ岐阜市いちご部会では、青年部を中心に「ぎふいちご」を広く使ってもらうため、岐阜商工会、地域企業やお菓子屋さんと連携して、いちごの加工品づくりを行ってきた。

その結果、濃姫パウダー、濃姫焼き菓子、まんじゅう、鮎菓子、ジェラートなどの新商品ができた。それらをＰＲするため、「信金ビジネスマッチングフェア２０１１」「富山市食の祭典」「市岐商デパート」など各イベントに参加し、農業普及課も支援を実施した。ＰＲの結果、「濃姫パウダーを使って商品を開発したい」などの問い合わせが入ってきており、加工用いちごの出荷体制づくりを生産部会、ＪＡと連携して行っている。

【写真　信金ビジネスフェア２０１１】（名古屋）

「柿の匠」試験販売で好調！

糸貫柿選果場では、今年度から糖度センサーが導入され、富有柿で 17 度以上の柿（赤秀・青秀・無印の３等級）を選別し、「柿の匠」として試験販売を 11 月 10 日から開始した。「柿の匠」の出荷量は、１日あたりで５％程度に留まるが、単価は、レギュラー品と比較して赤秀で 3,500～1,000 円、青秀で 2,000～800 円、無印で 1,500～700 円程度高く販売されている。

なお、12 月中旬から「袋掛け富有柿」の出荷が始まる。

（今年度㊙柿振興会では約 10 万果に被覆）

【写真　柿の匠】

地域の動き等

■ぎふクリーン農業研修会実施

てんこもり農産物直売所では、ぎふクリーン部会員の仲間づくりを目的に 11 月 17 日に研修会を実施した。農林事務所では、ぎふクリーン農業の考え方や、登録品目の一つであるたまねぎの栽培方法を指導した。

■岐阜地域農産物直売所研修会

11 月 16 日に農業普及課主催で岐阜地域農産物直売所研修会を開催した。研修会では、加工品の開発及び重要性についての講演、製造から販売までの活発な活動事例、営業許可の手続きについての説明が行われた。

今後の生産・経営する上で有意義な研修会となった。

【写真　岐阜地域農産物直売所研修会】

西濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１１月３０日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

直播栽培実証圃の経過

輪之内町の直播栽培実証(品種キャッスル)の結果、直播きでは、移植苗に比べて出蕾、収穫始めが２週間程度早かった。

出荷始まる

11 月４日にＪＡ西美濃ブロッコリー協議会の目揃い会が開催され、生産者約 30 名が出席し、出荷調整の方法などを確認した。農業普及課からは、防除や年明けに出荷する品種の追肥について説明した。

協議会の目揃い会を受けて、不破部会では 11 月 21 日、安八部会では 11 月 22 日に各地区部会の目揃い会が順次開催された。

出荷物からは、11 月の高い気温の影響で発生した花咲きや蕾が枯死するブラウンビーズが見られたため、生産者に対して出荷選別時の適正な選別を行うとともに、ほ場の状態によってはM品での収穫をするように指導した。なお、現在では問題が出ていない。

【不和地区での目揃え会】

地元量販店でのＰＲ

11 月 12、13 日に大垣市の量販店イオンでぎふクリーン農業のＰＲを兼ねて､ブロッコリーの試食及びレシピ配布(茎のきんぴら、ゆかりあえ)を行い、両日で約 800 食の試食を提供した。どちらも来店者の関心が高く、新しい食べ方を提案することができた。

また、当日は大垣産の朝採りブロッコリーを１個 128 円で販売し、産地をＰＲすることができた。

【朝取りブロッコリーとレシピ】

主要農作物の生産振興

■水稲

収穫状況

大規模生産者も含めてハツシモの収穫が終了し、品質についてもほぼ確定した。

今年は９月に台風 12 号、15 号が日本に上陸した影響で穂ズレや不稔、細菌性の病害が発生した。そのため、全体的に登熟歩合が低下し、千粒重も少なく、収量は平年を下回るとともに、一部のカントリーエレベータでは２等調製となった。

■大豆

難防除雑草の発生状況

地域によって状況は異なるが、帰化アサガオ類やホオズキ類などの難防除雑草が問題となっている。そこで、農業普及課では、11月16日の大豆現地研修会において、雑草の紹介と防除法についての説明を行った。また、営農指導員、アドバイザーを通じて、収穫期までにこうした雑草を除去するように各生産者へ具体的に指示するよう働きかけを行った。

■トマト

環境制御についての取り組み

11 月２日に海津トマト部会全員栽培研究会が開催された。農業普及課からは、冬期の管理をテーマに、1)　肥培管理・病害虫防除　2)　重油削減技術（部会員の取り組み事例）3)　新たな施設園芸の環境制御　について説明を行った。環境制御については、過去の部会員の時期別、ハウス別の温湿度や CO_2 濃度についての情報提供を行った。

今後は、メーカーの協力で、環境制御測定装置を設置し、詳細なデータに基づく、具体的な対策を検討する。

新規就農者支援

現在、愛知県出身で海津トマト部会生産者ほ場で研修（新規就農者育成事業）を行っている研修生が、地域の空きハウスでの就農が決定し、自己資金によりハウスの修繕を開始した。農業普及課では、現在、認定就農者制度の申請の支援を行うとともに、今後、同様な非農家の就農ケースを考え、スムーズ就農できるように部会役員、各関係機関との連携をすすめている。

■きゅうり

天敵（スワルスキー）の利用実証及び出荷状況

農業普及課では、きゅうりの害虫「ミナミキイロアザミウマ」の防除対策として、天敵（スワルスキーカブリダニ）の利用実証を３戸の生産者で行っている。天敵は９月に放飼し、11 月下旬の栽培終了まで続けた。実証の結果、天敵の放飼は高い防除効果が確認され、殺虫剤の使用回数は慣行の 50%以下となっている。

出荷状況は、抑制栽培が終了し、半促成栽培への切り替えに入っている生産者もおり、出荷量はやや減少している。日量 1000～1300c/s 程度。(11 月中旬)。10 月末までの販売実績（対前年）は、数量：108%　金額：112%　単価：103%である。

■なし

来年産に向けた生産者支援

落葉期となっているが落葉が遅れている。来年産の準備が始まり、土壌改良や改植の準備が行われている。

ＪＡにしみの本店において来年産栽培暦の検討会(11/16)が行われ、農業普及課から　は、今年度の作柄と病害虫の発生状況及び新規交信攪乱剤の実証ほ調査結果の報告等の支援を行った。

大垣ナシ生産連絡協議会（事務局：大垣市）では、11 月 25 日に、「大垣ナシ（幸水）品評会」(8/19 実施）の反省及び鳥獣害対策に関する講演会が行われた。

【かきの出荷状況】

■かき

富有、陽豊の出荷状況

着果量は例年の８割程度で少なく、気温が高いため着色が遅れた。台風の影響で傷果が多いが、９～10 月の日照量が多かったことから、糖度が高くなっている。

出荷量は少ないが、現在は出荷ピーク時である。

■ポインセチア等

出荷最盛期

大垣市、神戸町、輪之内町で栽培中のポインセチアは出荷が最盛期に入っている。 暖秋の影響もあり動きは昨年より鈍い。作柄は安定しており、クリスマスの本格的な需要期に期待している。

【出荷直前のポインセチア】

県育成の新サルビア「フェニックスシリーズ」については、落花が多いこと、草丈が高くなること、株が大きいこと等、鉢花には難しい面もあるが、管内で５戸の農家でとりあえず試作開始のため、挿し穂用の親株を配布した。

揖斐農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１１月３０日現在

今月の重点活動

■柿

富有柿出荷がピークを迎える

大野町内の各柿園では、１１月後半に入り富有柿収穫のピークを迎えた。今年は、開花時期が遅れるとともに、夏季の高温や降水量が少なく推移したことで肥大が遅れたが、その後天候に恵まれたため収穫前には平年並みの大きさとなった。

柿選果場では連日選果作業が行われ、京浜・中京市場へ出荷されるほか地元直売所で販売されている。

日帰りバスツアー等を活用した消費者への産地ＰＲ

１１月２７日に全農岐阜及びアピタの共催による大野町柿狩りバスツアーが開催され、愛知県内の消費者を対象に選果場見学、収穫体験等が行われた。また、１１月１８日には県内各地の消費者が参加して朝市・直売所バスツアー（主催：農産物流通課、運営：サンメッセ株式会社）が実施された。農業普及課では、かき振興会及びＪＡ等の関係機関と連携し支援を行った。

農業普及課からは、ぎふクリーン農業による栽培を始めとした、かき振興会の安全・安心な農産物づくりや、消費者の嗜好を考慮した新品種作りへの取り組みなどを紹介し、消費者の柿に対する理解向上を図った。また、さらなる柿消費拡大へ向けて柿の機能性などについても情報提供を行った。

主要農作物の生産振興

■水稲採種ほ

ハツシモ種子生産物審査を実施

大野町米麦採種ほ生産組合により生産されたハツシモ岐阜ＳＬ種子について生産物審査を実施した。発芽試験の結果、全生産者のサンプルが発芽率９０％以上、異品種混入等も見られず、５０，３３０kg 全量が生産物審査合格の結果となった。

■小麦・大麦

生育調査を実施、出芽状況は良好

奨励品種決定現地調査、年次変動追跡調査として、小麦「イワイノダイチ」「きぬあかり」「さとのそら」、大麦「さやかぜ」、「ミノリムギ」の生育調査を実施している。２４年産は小麦５７０ha、大麦５０ha の作付けが計画されており、１１月１５日までに大部分のほ場で播種作業が終了した。播種時期の圃場状態により差が見られるものの、展示ほを含めて出芽など生育状況は概ね良好である。

■大豆

フクユタカ収穫開始

１１月２６日から管内大豆の収穫が本格的に開始された。生育期間中の台風の影響により早期播種の圃場では倒伏が見られる圃場もある。

今後農業普及課では、摘心や新規種子消毒剤の展示ほについて実施した生育調査結果をとりまとめ、安定生産技術の確立に向けて検討を行う。

■いちご

揖斐川いちご生産組合研修会の開催

農業普及課では、１１月２日に開催された揖斐川いちご生産組合の研修会を支援した。

研修会では、各生産者の圃場を巡回し、農業技術センターや農業経営課の協力を得なが

ら、厳寒期に向けた栽培管理について現場で直接確認した。新規就農者の２名も参加し、技術の習得と交流を図った。

■茶

関西茶業振興大会功労者表彰

１１月１９日に愛知県西尾市文化会館において第６４回関西茶業振興大会が行われ、土屋正義氏（揖斐川町）に功労者表彰が授与された。同氏は(農)桂茶生産組合に設立当初から代表理事として携わり、組合の発展に貢献された。また、製造及び宣伝・販売に熱心に取り組むとともに、美濃茶流通センター共販委員として、美濃いび茶の発展に貢献された。

担い手の育成・確保

■４Ｈクラブ

いび川マラソンに「揖斐地区農業後継者クラブ」コーナーを出店

農業普及課では、若い農業者で組織される４Ｈクラブの活動を支援している。

１１月１３日に開催された「いび川マラソン」では、４Ｈクラブ員による農産物の販売が行われた。販売品目は、各クラブ員が持ち寄った農産物（米、ダイコン、ネギ等）の他、ジャガイモを調理した「ジャガバター」。県内外から参加した多くの来客者からも好評で、クラブ員も毎年この活動を楽しみに参加している。

■管内女性農業者

「農業若葉マーク女性の集い」を開催

【おはぎ作りの実習】

１１月２２日に揖斐管内で農作業や家事・育児に携わる若い女性が集う場として「農業若葉マーク女性の集い」を開催した。

講師には、女性農業者の先輩として女性農業経営アドバイザーの田下喜代さんの他、農業経営課の協力をいただいた。

簡単な実習の後、農家へ嫁いでから主体的に農業経営に参画するまでの生活や考え方の変化、農産物加工への取り組み等についてお話しを伺った。農家ならではの資源や女性農業者のネットワークを活かした田下さんの生き方は、大いに参考になったと思われる。また、参加者同士の情報交換により交流も図られ、意義ある集いとなった。

農業普及課では、農家に嫁いだ若い女性を「将来の担い手」として位置づけ、今後も支援していく予定である。

地域の動き等

■池田町「農地イキイキ再生週間」の耕作放棄地解消活動支援

ブルーベリーで耕作放棄地解消

１１月１４日に県及び県耕作放棄地対策協議会の主催により池田町般若畑地内にある今西和平さんの圃場でブルーベリー苗の植え付け作業が行った。当日は、池田町及び同町と連携協定を結ぶ岐阜農林高等学校の生産流通科果樹専攻生も交えた３４名が参加し、３０ａの圃場に約５００本の苗木を植え付けた。

学生らは農業普及課担当からブルーベリーの特徴や栽培方法等について、園主からは経営方針（観光農園）や耕作放棄地の実情と対策について学んだ。

当日の植え付けも含め１ha の圃場には約１，３００本のブルーベリーが植わっており、２年後には本格的な収穫が始まる予定である。

中濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１１月２８日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり農産物（さといも）

今年から円空さといもの無選別持ち込み開始

11 月 21 日から円空さといもの出荷が始まった。今年からイモをばらしただけの無選別での持込みに変更したため、選果場での混乱も予想されたが、問題なくスムーズに選果が行われている。出荷は始まったばかりであるが、価格は今のところ例年並みとなっている。

中濃里芋生産組合が栽培している、来年度用の種芋の収穫を 12 月に予定しており、農業普及課では、優良種芋の生産について引き続き
支援を行っていく。

【11 月 10 日の目揃え会の様子】

円空さといも掘り取り体験

11 月 20 日に、中濃農業祭と併せて円空さといもの掘り取り体験が行われた。今年は、82 名の参加があり、中濃里芋生産組合の役員らが、掘り取り方法について熱心に指導を行った。

【参加者に説明をする生産者】

瀬尻小　さといも収穫

11 月 22 日に、瀬尻小３年生が円空さといもの収穫体験を行った。今まで、授業の一環として、４月に植付けを行い、追肥や観察などをしながら、自分達でさといもを栽培して取り組んできたものである。

農業普及課では、さといもの掘り取り方法について指導を行った。

今後、瀬尻小では、12 月に円空さといもパーティー　を開催し、さといもを使ったいろいろな料理を作ることとしている。

【瀬尻小のいも掘り】

主要農作物の生産振興

■大豆

収穫期間近

一部、落葉しないほ場があるものの、気温の低下とともに、茎や莢が黄化している。収穫は、今月中旬から始まり、単収は、120～180kg/10a 程度と前年を上回る見込みである。農業普及課では、適期収穫等について情報提供し、高品質大豆生産について支援していく。

【小麦の出芽状況】

■小麦

適期播種の励行

農林 61 号の播種は、10 月末頃から 11 月中旬にかけて概ね終了し、出芽も順調に進んでいる。小麦の播種予定面積は、前年の 120%弱である。農業普及課では今後、生育調査を行いながら高品質小麦の生産安定について情報提供していく。

■いちご

いちごの生育状況

生育は、昨年よりも進んでおり、頂果房の収穫・出荷も早く始まり、中濃いちご生産組合としての共同出荷は、12 月 7 日から開始される。

11 月 22 日と 24 日に平成 24 年産イチゴ親苗の配布があった。今年の親苗の出来は良好で、病害虫の発生もない。農業普及課では、来年作の生産向上に向け、親苗管理について指導を行っていく。

■美濃市菊生産組合

ぎふクリーン農業の菊をＰＲ

美濃市の道の駅「美濃にわか茶屋」の農産物直売所において、ぎふクリーン農業で栽培された菊が販売されている。美濃市菊生産組合は､平成 22 年にぎふクリーン農業の生産登録を行うなど、環境に配慮した菊栽培を実践してきている。この取り組みをもっと地元消費者にも知ってもらおうと、今月からぎふクリーン農業のマークを表示して販売を始めている。

農業普及課では、今後とも、美濃の菊のＰＲができるよう支援していく。

【直売所での販売状況】

担い手の育成・確保

■新規就農

新規就農者へ対応

管内在住の新規就農希望者と、ＪＡ、市担当者とともに、露地野菜による就農までの具体的な手順について協議する機会を持った。現在受けている研修内容と、就農する作目にミスマッチが生じたため、来年度はＪＡの施設を利用して研修することとし、中濃地域就農支援協議会中濃支部において、就農計画の作成等を支援していくこととした。

また、ＪＡが行ってきた就農塾生の中から、さといも、夏秋ナスの就農希望者が２名誕生した。ＪＡ、市担当者と、それぞれの現状と課題について確認し、来年度の作付け開始に向け、準備を進めていくこととした。

地域の動き等

■かみのほ特産品加工組合

経営研修会開催

11 月 11 日、富山市の経営コンサルタント山瀬孝氏（県６次産業化実践アドバイザー）を講師に招き、かみのほ特産品加工組合が開催した経営研修会の運営を支援した。これまでの事業実績を数字で把握し、今後の売上や経費の数値目標を設定するとともに、新商品の販売戦略等についてアドバイスを受けた。

目玉商品を中心に、新たな売り方や売り先を検討する良い機会となり、東京での試験販売の計画もまとまった。14 日から黄ゆずの加工が始まっており、今年は、昨年の約３倍量を加工する予定で、加工組合員はやる気で取り組んでいる。

■虹の会

加工研修会開催

11 月２日に若妻グループ「虹の会」が中濃農業祭への出展準備と併せて加工研修会を開催したため、農業普及課では支援を行った。

中濃農業祭に出品予定の、黒米入りいももちと切り餅を作り、作業手順や加工量の確認を行うとともに、地域の米粉を使ったシフォンケーキとロールケーキの加工を行った。地域の農村女性の交流や資質向上がさらに図られるよう、今後も支援を行う。

【ケーキを試食しながら楽しく交流】

郡上農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１１月３０日現在

今月の重点活動

■トマト

夏秋トマト部会栽培反省会

平成23年11月18日（金）に夏秋トマト部会の栽培反省会を実施した。本年は出荷量で前年比約１３０％の好成績をあげる事ができたが、一方で９月下旬からの出荷量激減など課題も多く残される年だった。

本年産の夏秋トマトの良かった点、悪かった点を整理し生産者の方々に改善提案を行った。

また、中山間農業研究所中津川支所の研究員を講師に招き、作型分散の技術について研修を行った。

【夏秋トマト部会栽培反省会】

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（にんじん）

にんじんミックスジュース

ひるがのファイト倶楽部、ひるがのドリーム、寺田農園の担当者が集まり、ひるがの高原の秋にんじんと飛騨りんごを利用したミックスジュースの製造販売について、高鷲振興事務所で打ち合わせ会議を行った。

「ひるがの高原にんじんミックスジュース」として新たなブランドを立ち上げ、名古屋の三越や香港へサンプル出荷することを計画しており、農業普及課では、郡上地域での６次産業の目玉として支援していく見込みである。

【秋にんじんの収穫】

■大麦

大麦生育順調

10月末から大麦のは種が始まっている。一部のほ場では種が遅れているが、全般的には順調に出芽し成長している。

郡上地域では平成２２年産より小麦から大麦へ麦種を全面転換したが、平成２３年産は、収穫前の天候不順の影響を受けて収量・品質ともにやや不良の結果となった。

今年度も生育調査を継続し施肥体系等を再検討する予定としている。

【１１月１６日の生育調査】

■南天

南天の目揃え会

11月7日～11日に八幡町７地区、15日に明宝、18日に大和町の各会場で南天の目揃え会が行われた。昨年度の南天は高温・干ばつ等の影響により生産量が激減したため、本年度の目揃え会では高温・干ばつ対策の技術を紹介した。

なお、12月17日～18日に郡上八幡南天市が開催される。

【南天目揃え会】

■花き

ひるがのフラワーサークル５年連続１億円達成

オリエンタルユリとトルコギキョウを２大品目として生産している「ひるがのフラワーサークル」では、今年度も販売高１億円を達成した。11月16日には反省会が開催され、今後も品質の安定を目指し市場に信頼される産地として努力していくことを確認した。

また、今年度試験栽培を行ったフランネルフラワーは、補完品目としてある程度手ごたえのある結果が得られたので、規模を拡大し来年度引き続き試験栽培を行うことになった。

■夏だいこん

出荷終了後の意見交換会

ひるがの高原だいこん生産出荷組合では１１月７日～８日に、県庁、全農岐阜、大阪・中京市場へ出向き、夏だいこん出荷終了後の意見交換会を行った。

県庁では農政部長をはじめ県幹部と意見交換を行い、農家１戸あたりの売り上げは約１，８００万円とまずまずの結果であった点、次年度課題を整理し市場評価を高める取り組みを強化していく点を報告した。

【県庁での意見交換会】

担い手の育成・確保

■新規就農

新規就農者の育成確保にむけ検討会

11 月 28 日、中濃地域就農支援協議会の主催で、「産地づくりと新規就農者の確保・育成に向けた検討会」が行われた。

当日は、指導農業士、女性農業経営アドバイザー、生産組合代表者と市、ＪＡ、農林事務所等関係者が３つの分科会に分かれて意見交換。国の新しい新規就農施策が計画されている中にあって、現場の問題点を出し合いながら、どう就農支援を行っていくか真剣な議論が行われた。

【新規就農者育成確保検討】

■女性農業経営アドバイザー

ＪＡ秋穫祭にて食農教育活動

女性農業経営アドバイザー郡上地区では、11月19日のＪＡ秋穫祭で食農教育活動を行った。食と農に関するアンケート調査と里芋を使った「芋もち」の試食を実施し、大勢の来場者で賑わった。「芋もち」の試食では郡上で昔から食べられてきたエゴマを使ったタレが大変好評であった。

アドバイザーからは、また機会があれば積極的に食農教育にも関わっていきたいとの意見も出た。

【「芋もち」の試食】

地域の動き等

■郡上市明宝

耕作放棄地を活用したらっきょう栽培

明宝の民宿経営者と地域担い手農業者との農商工連携を支援し、耕作放棄地を活用した「らっきょう」の栽培を開始した（約５ａ）。

民宿経営者はらっきょうを使った商品開発（らっきょう漬け、ドレッシング等）に取り組んでいるが、販売拡大には、より多くのらっきょうを必要とするため、モデルほ場をきっかけに、明宝に栽培が広がってくれればと望んでいる。

また、同ほ場では岐阜県型総合獣害柵「猪鹿無猿柵」と「防草シート」の展示も兼ねており、順調ならっきょうの生育と被害回避の状況を踏まえて、２４年度も面積を拡大して作付けを進める予定である。

【らっきょう栽培】

可茂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１１月３０日現在

今月の重点活動

■次世代を担う可茂地域女性農業者交流会

第４回次世代の農業を担う可茂地域女性農業者交流会を１１月１６日に、開催した。次世代を担う農村女性の交流の機会を作り、併せて農家経営に関する資質の向上を図ることを目的に実施しているもので、今回は(有)てまひまグループの協力を得て、県産米粉を活用した加工技術講習会を行い、実習を通して相互交流を図るとともに、農村女性起業活動の先進的事例である(有)てまひまグループの活動経緯について説明を受け、意見交換を行った。

【米粉の加工技術講習会】

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（青ねぎ）

坂祝町青ねぎトンネル被覆試験

坂祝町青ねぎ生産部会は、冬場の早期出荷を目的に一部の農家で小規模ハウスによるトンネル栽培を実施している。先進県によると、トンネル栽培は冬期間の出荷が早まるとともに、とう立ちも抑制されるとの報告がある。農業普及課では当該事業を推進し、産地拡大を図るため、トンネル内の経時的温度変化や被覆資材の違いによる保温効果について調査する計画である。

【被覆前の小型ハウス
（手前はプラグ苗）】

■大豆

収穫進む

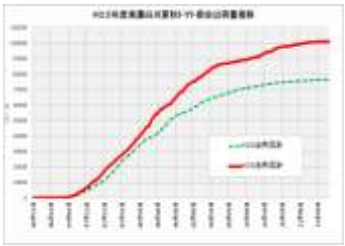
管内では、本年度約８７ha の大豆栽培が行われており、中山間地域の白川町等で作付されている「タチナガハ」（約２３ha）については収穫が終了した。なお、中山間地域で問題となっている青立ち症状については、農業経営課や試験研究機関担当者の助言を元に、刈払機で上部の葉を切断する等の対策を提案・指導した結果、ある程度の効果が認められ、収量・品質は概ね確保される見込み。また、平坦部では成熟期を迎えており、１１月中旬から収穫が開始されている。

【(有)土利夢ファーム可児による
「中鉄砲」収穫作業（可児市内）】

■トマト

美濃白川トマトの出荷量が前年比130％以上に！

美濃白川夏秋トマト部会の出荷も残りわずかとなり、出荷量は昨年比 132.5%（１１月１４日現在)と昨年を大きく上回り、多収の実績で締めくくれる状況となっている。全部会員が取り組む栽培技術改善が安定出荷につながっている。農業普及課は、トマト部会反省会や技術部会反省会等を通じて、成果を検証するとともに、次年度に向けた支援を継続していく。



【夏秋トマト出荷量の推移】

■柿

堂上蜂屋柿、収穫・皮剥き開始

「堂上蜂屋柿」の収穫がピークを迎え、１１月中旬から皮剥きや干し作業が始まっている。果実は例年より大きく、収量も多い見込み。１１月に入り、山之上の富有柿も収穫が本格化している。着色状況は平年並みで収穫進度も順調に推移している。また、着果数が平年並み～やや多く、果実肥大も良好となったことから、収量が多い状況である。平年に比べ１階級程度大きい２Ｌや３Ｌ中心の出荷となっている。

【天日乾燥が進む
「堂上蜂屋柿」】

■茶

茶園整備始まる

白川町中川地区を中心に、１１月上旬から茶園の再整備（約２ha）が始まった。過去２年は定植作業の遅れが茶苗の活着に影響したことを踏まえ､昨年より２ヶ月ほど早く始まっている。今年度は予定どおり苗が配布され、定植も実施できる見込みとなっている。農業普及課担当による苗定植講習会は３月中旬に実施する予定としている。

【再整備が進む茶園】

担い手の育成・確保

■集落営農組織

白川町集落営農組合連絡協議会が日本農業賞岐阜県代表に

白川町集落営農組合連絡協議会が「日本農業賞」集団組織の部岐阜県代表として選定された。１０月２８日にはＮＨＫによる当該集団に関する取材があり、ＪＡめぐみの担当者の案内により、佐見とうふ「豆の力」・佐見ライスセンター・大豆収穫作業風景等の撮影と、協議会長に対するインタビューが行われた。なお、岐阜県審査表彰式は１１月２１日にＮＨＫ岐阜放送局において行われた。

【協議会長に対するインタビュー】

■集落営農担い手発掘サポート事業

室山集落活動に関する関係者打合せ

１０月２４日に白川町役場において、集落営農サポーターと関係機関担当者が出席し、今後の集落活動に向けた支援側の検討を行った。サポーターからの活動報告の後、活動に対する集落内の方向性の整理、来年度の事業継続に向けた検討の必要性等が課題として確認された。農業普及課は、事業の実施に向けて今後もチーム員として支援を継続する。

【打合せの様子（左：サポーター）】

地域の動き等

■全域

各地で農業祭（産業祭、秋まつり、ふるさと祭）にぎわう

１０月下旬から１１月中旬にかけて管内各地で農業祭等が開催され、農業普及課は農産物品評会等の審査や農業生産者組織等の支援を実施した。

■可児市

可児市地産地消推進協議会

可児市は可児の特産品を育てる目的で､今年度から地産地消推進事業に取り組んでおり、１１月中の第１号認定を目指し、協議会で認定のガイドラインの協議を行ってきた。委員には市内の農業・食品加工・飲食店・販売等の各関係団体の代表者が選任され、これまで協議会は６回開催された。その結果、認定品目は可児で多く作られる上位品目や伝統的作物に限定することになり、申請された商品はガイドラインに従い実行委員会が認定を審査する。この認定された商品には「可児そだち」というブランド表示が認められ、認定品は１１月３０日の第１回認定式でお披露目された。今後「可児そだち」は市内の直売所や小売店での販売だけではなく、飲食店でも食べられるようになる。

■美濃加茂市

第６回　夏秋なす就農塾開催

１０月２４日にＪＡめぐみの主催の就農塾（夏秋なす）第６回現地研修会が、美濃加茂市内ほ場にて開催された。ＪＡ担当者からは、収穫終了にあたってのほ場の片付けや次年度の栽培に向けたほ場の選定、土壌診断の実施、夏秋なすの経営について、説明があった。農業普及課からは、夏秋なす部会での取り組みや実績について紹介し、部会員への誘導を図った。

【研修会の様子】

東濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１１月３０日現在

今月の重点活動

（農産加工活動　始動）

10月30日に瑞浪市内の女性25名により農産加工組織「工房みちくさ」が設立されるとともに、11月5日には「工房みちくさ」のメンバーが準備を進めてきた農産物加工所が完成した。

完成した加工所は約100㎡で、11月15日には、瑞浪市長やＪＡ組合長等多数の来賓を招いて、竣工式が開催された。施設のお披露目と同時に、活動を開始させた「工房みちくさ」の山田代表は、「関係機関の支援で、加工場の竣工を迎えられた。今後はメンバーの力を結集し、瑞浪市農業の活性化に寄与できるよう商品開発に努めたい。」と抱負を述べた。

【竣工した農産加工施設全景】

加工品は、餅、総菜、弁当、漬け物で、来年オープンする瑞浪市農産物等直売所での販売をめざすが、当面は市内のプレ直売での販売や受注生産を行いつつ、販路を拡大していく計画である。

加工所の開設あたっては、場所、資金等の確保が大きな課題となったが、ＪＡの空き倉庫を借りることができるようになったことで、大きく前進した。

【加工品を説明する山田代表（左から２人目）】

農業普及課では、加工組織の設立、加工所開設に向けて継続的に相談活動を行ってきた。特に今回は、女性達が自己資金を集め、企画してきたことから、組織形成から加工施設のレイアウトづくり、設備の選定・調達まで、広範かつきめ細かな支援を行った。支援を通じて、目的に向かって行動する女性の行動力に改めて驚かされた。

関係機関からは、「工房みちくさ」がＪＡ女性部の中心的存在となるよう、大きな期待が寄せられている。

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

（出荷ピークに）

10月末からピクセル等早生品種の出荷が始まり、良質なブロッコリーが量販店や直売所で販売されている。

11月上旬に開催された野菜づくり塾では、収穫・出荷調製・店頭販売の実習を行った。新鮮なブロッコリーは瞬く間に完売となり、受講生は商品としての販売方法を身につけ、自信をつけた様子であった。

【野菜づくり塾出荷研修】

また、多治見市にある法人では、出荷量の増加にともない従来の同市内量販店に加え、春日井市でも販売を開始し販売先を広げている。今後 12 月中旬までの出荷を予定している。

■いちご

（いよいよシーズン到来）

11 月 15 日過ぎ頃から、徐々に赤く色づき始めている。多治見市の法人では、12 月上旬からの出荷スタートを目標としており、その準備に追われている。

■大豆

（収穫終了　収量は平年並み）

瑞浪市日吉町で栽培されている大豆（フクユタカ）の収穫が11月15、16日に実施された。収穫量は1.8t（前年比97%）とやや少なく、台風１５号にともなう冠水等の影響が出たが、減収の程度は限定的であったと考えている。収穫された大豆は全量土岐市の味噌製造業者へ出荷される予定となっている。

【収穫の様子】

担い手の育成・確保

■土岐市鶴里町

（先進地視察）

鶴里地区集落営農設立準備会は、11月２日に先進地視察を行った。視察先は、売れる米づくりに秀れたノウハウを持つ、（資）龍の瞳（下呂市）と、集落一農場を実現し、稲、麦、大豆生産に加え、景観形成作物を集落の活性化に利用している(農)農夢おおまき（中津川市）であった。時間的にタイトな視察ではあったが、先方との意見交換では積極的な質疑が行われ、具体的なアドバイスを聞くことができ、準備会のメンバーからは組織づくりに前向きな意見が出た。

また、同準備会は、11月25日に、農機販売会社の協力を得て集落の耕作放棄地等を耕起する活動を行った。

農業普及課では、関係機関と連携し、これらの企画提案と実施支援を行った。

【視察先で説明を受ける】

【耕作放棄地等再生活動】

地域の動き等

■サルビア新品種「フェニックスシリーズ」の試作始まる

（県育成のサルビアに期待）

瑞浪市の花き農家では、県が育成したサルビアの新品種「フェニックスシリーズ（３品種）」の試作を行うことになり、11月９日に、県農業技術センターで配布された苗を生産者に届けた。落ち着いた紫系花色に、委託した生産者も一層興味を深めたようであった。今後農業普及課では、市場性、栽培特性を把握するため、支援していく予定である

【生産者への説明】

■全域

（各市で農業祭開催）

11月は、各市で農業祭が開催され、どの会場も賑わいをみせた。13日には土岐市農業祭が開催され、ミニ産地づくりをめざして栽培されたブロッコリーが販売され、好評のうちに完売した。また農林事務所のコーナーを設置し、各課の取り組みをパネルで紹介した。20日には瑞浪市農業祭が開催され、農産物品評会には145点の出展農産物があった。農商工連携で商品化された「まこもたけカレー」の試食や堆肥販売等も行われた。

23日は多治見市で開催され、市内農業組織と直売組織等が農産物の販売を行い、農業祭を盛り上げた。

【直売所販売コーナー】

恵那農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１１月３０日現在

今月の重点活動

■夏秋トマト

次年度の後半出荷量の安定をめざした取り組みの誘導～各地区で栽培反省会を開催～

今年の夏秋トマトの出荷量は 1,617t と前年をやや上回り、後半出荷量は 36%と前年より 3%増加した。しかし、平年並みを脱しておらず、次年度は取組の結果を出す正念場となる。このため農業普及課では、次年度の栽培計画が固まる１月の三者面談までに、地区栽培反省会等の機会を活用し、後半出荷量の確保に向けた取組の推進を行っている。

今年実施した主枝更新・花房除去、2 期作、高温対策の実証結果と、アンケート調査を元にしたホルモン濃度の見直し結果などを用いて、各自の技量にあわせ後半出荷確保のメニューを選択して取り組むよう支援し、また、技術部会員からも取組結果や今後の改善点等意見を述べ、生産者側からの視点での助言を求めている。

農業普及課では、今後開催される生産者、JA との個別三者面談により後半出荷量確保に向けた取り組み計画を支援し、産地全体の出荷量安定につなげていく予定である。

【地区トマト栽培反省会に詰めかけた生産者ら】

主要農作物の生産振興

■大豆

収穫まであと一息～現地巡回研修会を開催～

農業普及課は 11 月 7 日、ＪＡ及び東美濃大豆生産協議会と連携して収穫前研修会を開催した。管内の各地域ごとに４カ所の収穫直前の大豆ほ場を巡回し、耕種要領の違いがどのような生育結果に結びついたのか現地検討を行った。巡回後は、施設内で本年の大豆生育の特徴と収穫作業のポイントについて農業普及課から説明するとともに、施肥設計の変更の必要性について意見交換を行なった。

【摘心栽培ほ場での効果確認】

■黒大豆

最後が肝心～収穫前現地巡回研修会を開催～

農業普及課は 11 月 25 日、ひがしみの黒豆生産者協議会と連携して収穫前現地巡回研修会を開催した。４カ所の現地を見ながら収穫適期の判断と、乾燥調製に係るポイントを説明した。これまでの努力が無駄にならないよう、最後が肝心と啓発し、計画的かつ的確な作業を促した。

【生育状況及び今後の管理について情報共有】

■いちご

いちご収穫始まる

管内のいちご農家では、11 月 20 日頃から順次収穫が始まっており、東美濃いちご生産協議会では 12 月 1 日に出荷目揃会を予定している（昨年 11 月 30 日実施）。

今年は、昨年と同様の 9 月 10 日前に花芽分化が確認された。定植後 10 月にかけての天候不順と低温の影響を受け初期生育は緩慢な傾向であったが、その後温暖に推移したことから

【簡易高設栽培いちごの収穫始め状況】

生育が進み、収穫始めは昨年とほぼ同じとなっている。
　新規栽培者については定植が遅れたもののその後の生育は順調であり、また、以前は１戸のみで取り組まれていた、防根シートと培地のみのベンチ栽培「簡易高設栽培」も今年新たに１７ａ程度増えた。農業普及課では、これから迎える厳冬期の温湿度管理とあわせ、より低コストで持続性の高い寒冷地いちごの体系を生産者とともに確立していく予定である。

■フランネルフラワー（花き）

恵那のフランネルフラワー拡大中！

【作型検討を行う出席者】

　県育成の鉢花品種「フランネルフラワー」が県内で加速的に栽培が拡大している中、恵那地域ではシクラメン生産との競合や冬の暖房費の問題から容易に拡大が進んでいなかった。
　農業普及課では、夏の涼しい気候や、冬の暖房余熱を利用して、当地域に合うフランネルフラワーの作型の検討をすすめ、生産者の取り組みにつなげている。
　11 月 10 日に開催した研修会では、６月中旬には種したエンジェルスターが出荷間際となっている状況や、来年５月に出荷を見込んでいる７月中旬は種のフェアリーホワイトの栽培状況などを見て検討を行った。肥料やわい化剤の施用方法など改良の余地があるものの、どちらの作型も順調に生育していることが確認され、今後の地域への波及が期待される。

担い手の育成・確保

■後継者育成

阿木高校の農業現地視察研修会を開催

【指導農業士の梅本さんから経営内容について説明を受ける阿木高校の生徒達】

　農業普及課は、管内農業高校（恵那農業高校、阿木高校）と連携して１年生を対象とした農業現地視察研修会を毎年開催している。７月に計画した阿木高校の研修については台風６号の影響で中止となったが、農業現場に直接触れる機会を生徒に持たせたいと再度検討し、11 月 16 日に実施となった。
　当日、シクラメンや夏秋トマト農家を視察し、経営主から経営内容について説明を受けた。また今回初の試みとして、中山間農研中津川支所の試験研究視察を行った。
　生徒達は熱心に話を聞き、積極的に質問を行う姿が見られ、農業現場を知るよい機会となった。

地域の動き等

■食農教育（恵那市）

小学生がブロッコリーを収穫体験～恵那市畑と学校給食を結ぶ交流事業～

　恵那市では毎年「畑と学校給食を結ぶ交流事業」を実施しており、今年度は７校で計画されている。11 月２日は岩邑小学校３年生を対象に実施され、富田営農組合が栽培するブロッコリー畑へ出向き、営農組合員の手ほどきを受けて１人１個ずつ収穫体験を行った。
　収穫体験後は小学校に戻り、農業普及課から恵那市の農業についての講話を行い、農業に対する理解を深める機会とした。

下呂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１１月３０日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援事業「龍の瞳」

龍の瞳生産組合長会議開催

龍の瞳生産組合には、県内に 18 の生産組合があり、組合長を中心に精力的な活動を行っている。11 月 17 日に県内全組合長が一同に会し、生産組合長会議が開催された。

先月行われた「目指せ　世界一新米コンテスト」で１位となった恵那切山龍の瞳生産組合の表彰式、2012 年度（資）龍の瞳の方針、商標の取り扱いについて説明、協議が行われた。

【生産組合長会議（美濃市）】

農業普及課としては、23 年産の生産状況を踏まえて課題とその対策について説明した。

今後は、23 年産の品質分析をさらに進め、24 年産に向けた高品質生産に向けた改善点等について提案していく。

主要農作物の生産振興

■水稲

まぜひかり生産組合研修会

下呂市馬瀬地区のまぜひかり生産組合は「ぎふクリーン農業表示制度」に登録し、減農薬減化学肥料によるおいしい米の生産を行っている。今回、引き続きおいしい米を安定的に生産するため、11 月 24 日に研修会が開催された。

農業普及課からは、23 年産生育経過、病害虫の発生状況について説明した後、24 年産に向けた対策について意見交換を行った。

【生産組合研修会の状況（下呂市馬瀬）】

また、新規栽培者等にし、ぎふクリーン農業に関する制度の概要、農薬使用上の注意点、登録者の責務等について説明を行った。

農業普及課では、今後も 24 年産の良食味、高品質生産に向けて技術支援等を行っていく。

■飼料用米

飼料用米の出荷準備始まる

下呂市では、本年度から約 23ha で本格的な飼料用米の生産が始まった。

９月に収穫された飼料用米は、乾燥、調製を経て最終の出荷準備に入った。

飼料は、市内の畜産農家とＪＡへ出荷されるが、荷姿が指定されているため、紙袋からフレコンへの詰め替え作業を、11 月 18 日に市、ＪＡ等関係機関が参加して行った。

【生育調査をする普及指導員（下呂市金山町）】

農業普及課では、23 年産の個別出荷実績等を分析し、次年度の安定生産に向けた技術支援を行っていく。

■夏秋トマト

トマト土壌消毒研修会

【錠剤による土壌消毒方法の状況（下呂市御厩野）】

下呂夏秋トマト生産組合では、11 月 9 日に土壌消毒研修会を実施した。

10 月で収穫を終了させたトマトほ場で、従来より簡単で安全な土壌消毒方法として、クロルピクリンの錠剤とバスアミド微粒剤（ダゾメット剤）の 2 種類の土壌消毒方法について研修を行った。

あらかじめ耕したほ場で 2 種類の土壌消毒剤の散布から、ロータリでの混和を経て、フィルムで被覆する最終段階までの実演を行った。

この研修会を通して、土壌消毒を実施していない生産者対しては、土壌消毒の作業が難しくないことをまた、土壌消毒を実施している農家には、より安全で簡単な方法があることを理解してもらった。

担い手の育成・確保

■新規就農者

就農支援資金貸付で新規就農開始

【整備されつつあるほ場（下呂市門和佐）】

ほうれんそうでの就農を計画している認定就農者 1 名（8 月 29 日に認定）の資金の貸付が 11 月 1 日に決定された。

また、栽培に必要な雨除けハウスをたてるためのほ場の整備が始まった。

本人は、実際に整備されつつあるほ場を見て就農を実感しているようであった。

今後は、ハウスの建設、種まき等が始まる。

農業普及課としても、できるだけ早く経営が軌道にのるよう引き続き支援していく。

先進地農家派遣学習報告会で学習成果を発表

【学習成果を発表する学生

11 月 10 日と 11 日に可児市の岐阜県農業大学校で先進地農家派遣学習報告会が開催された。

「先進農家派遣学習」は、岐阜県農業大学校が先進農家に学生を派遣して、実際の農業の現場での体験を通して実践的な農業経営能力を習得することを目的に毎年実施している。

下呂市内では、トマト農家(7/25～8/26)へ 1 名、2 件の畜産農家(9/26～10/28)へそれぞれ 1 名ずつ、合計 3 名が派遣された。

トマト農家へ派遣された学生は、おいしいトマトを作るために肥料をパソコンで整理している農家の取組について体験し、畜産農家へ派遣された学生は、毎日牛の様子を見ながら餌をやることの難しさを体験するなど、学校ではできない貴重な経験をした。

一方受入れ農家も「学生が来ると新しい目、違った目で仕事を見てくれる。その結果、自分自身の仕事の見方が変わってくるので非常に参考になった。」と学生たちをほめていただいた。

【学生を激励する派遣受入農家（可児市）】

飛騨農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１１月３０日

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援品目（宿儺かぼちゃ）

フードアルチザン（食の匠）打合せ会議を開催！

「ぎふ伝統食文化グランプリ（県とイオン㈱の包括提携協定にて開催）」において宿儺かぼちゃ研究会が最優秀賞を受賞したことを受け、11 月 25 日に研究会、イオン㈱、ＪＡ、市、県が今後の取り組みについて打合せ会議を開催した。

今後は、イオン㈱が推進するフードアルチザン（食の匠）プロジェクトに向け、関係機関が連携し産地振興に向けた課題の整理等を行っていく。

【イオンとの打合せ会議】

主要農作物の生産振興

■飛騨トマト

昨年より単収増！

今年の飛騨トマトの平均単収は約 8ｔで、昨年の 7.1ｔに比べ 0.9ｔ増加した。「単収 1ｔ増加」が飛騨トマト部会の今年の目標であり、普及課としても気象変動に対応した栽培管理について支援を行った結果、ほぼその目標に近い実績を上げることができた。

今年は梅雨明けが早く、中段の着果も良好で、出荷は前半型となった。反面、9 月下旬～10 月にかけての生育後半に、樹勢低下による上段での花落ち、灰色かび病多発等により出荷量が大きく落ち込んだという課題も残った。写真は上段もしっかり着果させていた優良圃場である。普及課としても、このような優良事例を各地域の反省会で報告するなどして、次年度は更に単収を伸ばすための対策を示していきたい。

【上段着果良好な圃場】

■飛騨ほうれんそう

越冬ほうれんそうの施肥改善のため実証区を設置！

11 月に入り、平成 24 年産の越冬ほうれんそうの播種が始まった。

今回、緩効性肥料の現地実証や中山間農業研究所の研究結果から一定の知見が得られたので、３銘柄の緩効性肥料実証区を管内５カ所に設置した。

現在、追肥主体の施肥により品質の安定が図られているが、緩効性肥料による施肥において生育状況や品質に問題がないことが明らかとなれば、追肥作業が省力できる技術として普及が期待される。

【緩効性肥料実証区】

■水稲（高山市、岐阜市）

米の品質分析を実施！

ＪＡ飛騨地域農業管理センター(10 月 21 日)及び岐阜県農業技術センター(11 月 21 日)で、今年の水稲調査ほ場の食味などの品質分析を実施した。

今年は、高山市で栽培された「コシヒカリ」や大粒で食味がよいと評判の龍の瞳として知られる品種「いのちの壱」を調査した。

分析の結果、昨年多かった高温障害による白未熟粒やカメムシによる斑点粒は少なく、「コシヒカリ」、「いのちの壱」とも、食味値は 80～90 で、とても高い数値であった。今後、これらの品質分析結果を整理し、普及活動に活かしていきたい。

■大麦

24年産大麦生育順調！

飛騨地域では高山市国府町、荘川町、大野郡白川村等で現在約24ｈａの作付面積で、麦茶等の需要に向けた大麦の生産が行われている。

11月14日現在の国府町調査ほ場での生育状況は、草丈が17.8cm、茎数が236本／㎡で昨年同時期の草丈14.3cm、茎数140本／㎡を上回っている。また、地域によっては収量向上に向け、昨年より播種時期を早める取り組みが行われている。

飛騨地域では今後、積雪や厳しい寒さを迎えるが、来年には品質の良い大麦が多く獲れることが期待される。

【11月14日の生育状況（国府町）】

担い手の育成・確保

■全域

農業教育連絡協議会を開催！

11月22日、飛騨高山高校山田校舎で高校主催による農業教育連絡協議会「担い手確保への意見交換会」が開催され、農林事務所、高校、指導農業士等の関係者59名が出席した。

当日は、生徒の研究活動「木曽馬による地域の活性化」の紹介後、高校の活動説明、指導農業士から本年度の農家宿泊研修の反省と今後の課題等活発な意見交換が行われた。

【生徒の発表の様子】

■高山市

「結（ゆい）」で新規就農の結束を！

高山市では新規就農者の育成を熱心に行っているが、成功するためには技術の習得のほか、地域や組織との交流も重要である。そこで、農業経営改善支援センターが呼びかけ、来春から就農する新規参入４名について、ハウス建設の互助「結」を実施することにした。

11月８日には、東京から移住就農した長谷川氏の畑に市役所や農業普及課の関係者が集結し、園主の指示のもと、ハウス建設を行った。

【建設の支援風景】

この結は、毎週２日ずつ人を変えながら、11月末まで続けられる。今後は、就農者の経営が軌道に乗るとともに、結の精神が引き継がれていくよう、関係機関も一丸となって、支援を継続していく。

地域の動き等

■飛騨市古川町

耕作放棄地解消！

11月９日、古川町高野地区にて飛騨市主催による耕作放棄地解消活動が実施され、市役所、ＪＡひだ、飛騨農林事務所等の職員12名が参加した。

これは、県耕作放棄地対策協議会が進める農地イキイキ再生週間（11月4～23日）の活動として行われたもので、約11ａの雑草地が、トラクター、草刈機により、作付け可能な農地へ戻すことができた。

【草刈作業の様子（古川町）】

この農地の有効活用については、今後、市役所で検討することとなっている。

県内の産地の動きと専門普及指導員活動状況

農業経営課技術支援担当
平成 23 年 12 月 1 日現在

1　専門普及指導員としての活動、指導内容（対策、支援等）

（1）普及指導員等の資質向上

◆「総合課題解決研修（担い手育成）」を開催

１１月１１日、多様化する就農希望者への育成支援能力向上を図るため、普及指導員を対象とした総合課題解決研修(担い手育成)を開催した。就農支援に関する施策や県の就農支援方針等に関する講義のほか、農外より就農した農業経営者を招き普及指導員に求める就農支援活動のあり方について討議を行った。今回の内容を今後の普及指導活動へ活用し、地域の就農支援体制の構築へとつなげてもらいたい。

（担い手担当：浅井義男）

◆「産地づくり計画作成研修」を開催

１１月２５日、普及指導員を対象に『産地づくり計画作成研修』（第１回目/全３回）を開催した。

今回の研修では、産地の現状分析を行った上で、戦略を構築するための産地づくり計画作成手法の習得を図った。

技術支援担当からは、ＳＷＯＴ分析及びＴＮ法による戦略の構築と評価、さらに、戦略を具現化するための普及活動計画の作成について事例を紹介しながら講義や演習を通して指導した。

グループによる演習の様子

今後、マーケティングリサーチ及び地域農業マネジメント手法についても研修を行い、各地域の産地づくり計画の作成を通して、普及指導員として求められる資質向上を図る。

（花き・研修担当：井戸誠二）

◆「高度技術（土壌肥料指導力向上）研修」の後期日程を開催

１１月２９日～１２月１日、土壌肥料に関する指導力の向上を目的に高度技術研修を開催した。研修では、土地利用型作物担当の普及指導員に対し、地域資源として肥料的な利用も期待される堆肥について、農業技術センター等で開発された簡易分析法の講義及び実習を行った。その後、施肥設計についても検討を行い指導力の向上を図った。

（野菜担当：加藤　高伸）

◆「技術・経営強化（経営指導高度化）研修」を開催

１０月１８日から１２月１日のうち１日を、４名の普及指導員それぞれに対し『技術・経営強化(経営指導高度化)研修』(第５回目/全７回)として現地指導した。今回は、経営改善提案するための聞き取り調査を、それぞれが対象としている経営体に対し実施した。午前中は事務所内で農業経営課技術支援担当と聞き取り内容について検討し、午後には現地を訪れ経営者との話し合いの中で経営体の現状及び将

来に向けた思いを聴き取った。今後は、各普及指導員とも約１ヶ月かけ、提案内容を経営改善提案書としてまとめる作業を行う。　　（農業経営担当：遠山敬司）

（２）県下の技術の統一

◆クリ新品種「ぽろたん」の普及をめざし岐阜県クリ研究大会が開催された

岐阜県クリ研究大会が１１月２日に岐阜市にて開催された。今回のテーマはクリ新品種「ぽろたん」の普及で、生産者や行政関係者など120名が出席した。

農業経営課からは全国及び県内における「ぽろたん」の取組事例を紹介するとともに、加熱すると渋皮が簡単に剥ける「ぽろたん」の特性を活かした販売に早急に取り組むよう提言した。

また中山間農業研究所中津川支所からは、「ぽろたん」の栽培方法についての講演が行われた。「ぽろたん」を使用した料理が展示される等、「ぽろたん」の可能性の広さを実感できる大会となった。

「ぽろたん」を使用した料理の展示

（果樹担当：石川嘉奈子）

（３）行政及び関係機関との連携及び情報の提供

◆岐阜夏秋トマト生産販売検討会の開催

１１月２８日、下呂市において平成２３年産岐阜夏秋トマト生産販売検討会が開催された。本年は梅雨明けが早かったこともあり、販売量は記録的な猛暑の影響により減収となった２２年を上回る13,028ｔ（前年比108%、５ヶ年比96%）となった。単価は高単価で推移した昨年を下回ったが336円/kg（前年比95%、５ヶ年比110%）が確保された。販売額は43億7348万円（前年比103%、５ヶ年比105%）を記録し、県下の平均単収は8.0ｔ（前年比108%）まで回復した。

３年目となる販売プロジェクトは、各選果場と市場・量販店の相互理解が進み連携強化につながっている点については評価されているものの、一方では後半の出荷量の落ち込みにより、契約出荷分が確保できない事態も発生した。本県産夏秋トマトは前半の出荷量をいかに後半まで安定させるかが課題となっており、農業経営課技術支援担当からは９月下旬以降減少した出荷量の確保に向けた改善対策の提言等を行った。　　（野菜担当：成田久夫）